

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年3月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は6のまま変化なし。「減少した」業種は7のまま変化なし。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から8に増加。「減少した」業種は15から14に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は7から9に増加。「悪化した」業種は6から12に増加。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は6から7に増加。「減少した」業種は7から6に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は8のまま変化なし。「減少した」業種は14から10に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は9から10に増加。「悪化した」業種は12から11に減少。

製造業

しようゆ製造

【県内全域】

輸入麦の政府売渡価格の改定があり、4/1から平均9.7%引き上げ。円安が大きく影響している。

豆腐製造

【県内全域】

大手豆腐メーカーがスーパー等への売価変更を申請し始めているようだ。

牛乳小売

【県内全域】

全社とも牛乳類の安売り目立つ。

製材

【県内全域】

徐々ではあるが、好転の兆しが見える。木材、建材の値上がり目立つ。

製材

【木更津】

輸入外材の数量は減少傾向にある。南洋材の輸入は本年度、11船から7船に減少した。

印刷

【県内全域】

3月の受注売上は、2月と比較し若干好転した模様。

ここに来て円安の影響か、印刷用紙の値上げ(値段の復元)が各社から発表されている。石油系の洗浄液や潤滑油も4月からの値上げが届き、ますます今後の収益圧迫要因となりかねない。

電気鍍金

【県内全域】

円安・株高の影響が少し関係してきている。多少の引き合い、特に

自動車関係、建築関係等は幾分改善の兆候が見られる。

鉄工

【千葉】

先行き明るい話題も聞かれるが、組合員の製造各社においては、依然として受注増につながるまでには至っていない。

機械部品製造

【野田】

全体的に横ばい状況。円安・株高で期待感はあるが、現場に反映するまで気が抜けない状況。

機械部品製造

【流山】

一部の業種で売上が増加しているが、円安、燃料費の高騰により、原料、材料の値段が上昇傾向にあり、厳しい状況に変化はない。

機械部品製造

【柏】

中国マイナスイメージ続く。日産等受注低調。半導体装置関係も低調。得意先の取引先の廃業が増えていくが、国内での受皿が少なく、苦慮している。

金属製品製造

【船橋】

期末に應じての仕事量としては増加はあるものの、収益的には十分とはいえない。

土砂採取

【県内全域】

一部には、出荷状況が良くなりつつあるところがあるが、現状売価での販売に限界がきており、値上げに

動かざるを得ないところが出てきた。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

【日用品・雑貨卸】 大手量販店への出荷量は増加しているが、値決め交渉は更に厳しくなっており、採算性は低下傾向。

【精肉卸】 商社から直接大手スーパー等に納入されるアメリカ産牛肉の輸入量は増加しているが、中小の精肉卸が扱う量は逆に減少。更に価格も下落傾向が続き、採算性不良。

【食肉卸売】 【千葉市他】

枝肉価格は好転しているが、頭数は増えない。

4月～6月期の配合飼料供給価格が平均32百/t値上げされることから、畜産農家の経営環境が厳しくなることが予想される。

【建築材料卸売】 【県内全域】

県内震災復興需要は収束した。震災復興関連は、人・車両・骨材など東北地方にとられ、千葉県内工事進捗が停滞、セメント出荷前年比は全国ワースト2位となっている。公共インフラ更新需要は底堅く、また、物流関連基地としての需要もあり、今後は緩やかな回復が見込

まれる。

円安による原熱料コストアップ・東北需要増によるセメント在庫品薄感を背景に新年度よりセメント値上。加えてセメント・骨材・輸送コストアップによる生コン値上収益改善の動きが本腰。

【自動車解体】 【県内全域】

前月同様、円安傾向が続き、スクラップ価格、輸出環境は堅調。廃車発生は、新車販売の低迷で低調の為、仕入れ単価は高止まり。

【乾物卸売】 【県内全域】

消費低迷状況は変わらない。生産期終盤を迎えている。例年より終漁が早いようだ。気温の上昇と低単価の影響が強い。

【小売】 【柏】

気温の上昇と共に、春物衣料品、アクセサリー等が売れている。貴金属等の高額商品にも動きがある。

【電気機器小売】 【県内全域】

メーカーは円安により回復してきたが、国内の小売りは、量販店も個店も売れていないのが現状で大変厳しい。

【青果小売】 【千葉】

全体的に売上が伸びず、相場が低下した。そのため、更に売上が落とすという、負の連鎖の様な現象が

起きてしまった。

【中古車仕入・販売】 【県内全域】

中旬までは堅調な相場状況で推移。成約率も高く、タマ不足の感が大きい。輸出は欧州情勢の悪化等、金融状況の変化を恐れ減少傾向、外国人バイヤーの動きも鈍化。

【小売】 【東金】

風の強い日が数日あり、客足が遠退いてしまった感がある。後半は暖かくなり、季節のずれが買い物動向に影響している。円安傾向により、商品の値段が少しずつ上昇。食品関係が落ち込んでいる。ファッション関連も低調が続く。サービス関連は若干伸びた。

【小売】 【野田】

売上の厳しさは変わりなく、総体的に3月も低調であった。

【印鑑小売】 【県内全域】

財団法人、社団法人の名称変更という特需があったが、売上増にはならなかった。

【小売・サービス】 【柏】

その日の気象状況によって来街者が大きく左右した。特に強風時の来街者数は極端に少ない。

【建設揚重】 【県内全域】

地域によって温度差はあるが、好調継続。今月より石油プラント定

修もあり、この調子が続く気配。残念なことに価格が伴っていない。

【遊覧船】 【鴨川】

1・2月に比べ、暖かくなった分、人が出てきているが、風の強い日が多いため欠航も多くなった。土日も震災以前に比べようやく9割近くにまで回復してきている。

【一般廃棄物処理】 【千葉】

3月は繁忙期のため、前月比は予想通り良い結果となった。

【学習塾】 【県内全域】

卒業した生徒の分の穴埋めができるかどうか分岐点。春期講習にどれだけ生徒を集められるか、塾経営にとってキーポイントの月。今年も例年並みの状況である。

【ソフトウエア】 【県内全域】

引き続き多少好転してきていると感じている企業が出始めている。

【建設】 【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は、平成24年3月に対し、年間20億円増加であった。

【貨物運送】 【野田】

政府による景気対策の効果は運送業にはまだ波及してきていない。

【輸出入】 【県内全域】

3月は売上が上昇基調になり、少し良くなる傾向。